

第Ⅳ章 理念確立のために

第1節 仏教による総合化—真宗総合研究所—

真宗総合研究所は、真宗に関する研究を行うための機関ではない。もちろん、真宗をテーマとする研究プロジェクトは存在するが、研究所そのものの存在テーマは真宗の研究にあるのではない。真宗あるいは仏教の立場から諸学問を総合することが、本研究所の基本的研究テーマである。

本学の教育・研究の基盤は浄土真宗にあり、現に文学部各学科や短期大学部など各分野においては真宗を基盤として教育・研究がなされている。そうした現状の上に、さらに本研究所が設置され研究活動を展開するのは、各学科・分野ごとの垣根や枠組みを取り払い、真宗による本当の意味での諸学問の総合化を果たすためである。

本研究所で各学科の教員がプロジェクトごとに集って共同研究することにより、真宗を基盤とする学問研究が、より明確な形となって具体化されるだけでなく、その研究成果は各学科にフィードバックされる。かかる意味において、真宗総合研究所は大谷大学の教育・研究に不可欠の組織であるといえる。

本研究所の研究員には、海外の研究者等を客員として迎える客員研究員制度もあり、国内外にも広く門戸を開いている。また、大学内外からの多様な人材の参加を可能とするための嘱託研究員制度、本学大学院ドクターコースの大学院生が研究補助を務めながら、自らの研究にも役立てることのできる研究補助員制度も設けられている。本研究所に専任研究員はおかず、各学科の教員が兼任で研究員を務め、設定された共同研究プロジェクトごとに参加したり、あるいは自ら特定テーマを設定するなどして、精力的な研究活動に取り組んでいる。

本研究所の研究には、学長が研究代表者となって共同研究プロジェクトを進める指定研究と、学内公募による一般研究がある。指定研究は期間3年を基本とし、3年ごとに見直しが行なわれる。一般研究は、個人あるいは任意の研究チームによる研究テーマ応募案件から選抜され、採用テーマに対して研究費が交付される。研究期間は原則として1年間である。これらの研究成果は研究所紀要等で公表される。

1. 研究活動

指定研究

(1) 大学史編纂研究

大谷大学の歴史に関する基礎的研究とその編纂をテーマとしている。

本学は2001年に、文部省令による近代的な大学として出発してから100周年の年を迎える。21世紀初頭という意義深い年に記念すべき節目を迎えるわけである。その日を目指し、当プロジェクトチームは、単に過去を掘り起こすだけでなく、現在と未来とを視野に置き、大谷大学の存立意義を確かめ得るような100年史を編纂すべく作業を進めている。

(2) 国際仏教研究

国際化時代を迎えた現在、仏教を通して東西文化の交流をいかに進めるか、その具体的な方途を研究するとともに、諸外国における仏教研究の現状の把握とそれらの成果を摂取することに取

り組んでいる。

(3) 真宗史料研究

東本願寺には未公開、未研究の貴重な資料が整理されないまま、多数保存されている。これを整理し、研究対象となるような形で公開することは重要な課題である。これは本学にしかできない研究であり、その成果が待ち望まれている。現在は、近世・近代に属する史料の研究が行われており、これによって近世・近代における国家と宗教の関わり等さまざまな問題が明らかになるものと期待されている。

(4) 西藏(チベット)文献研究

本学には世界的にも貴重なチベット語文献が数多く所蔵されている。それらを精密に調査・整理して、目録をつくり、写真版で刊行することをめざしている。さらに、刊行にあたっては、情報化時代にふさわしく、目録や文献をコンピュータ化する作業も進めている。

チベット語は、仏教文化圏において重要な言語のひとつである。パソコン(マッキントッシュ)でチベット語を処理できるシステム(Tibetan Language Kit)を開発、世界の研究者に無料提供している。

また、このシステムを利用して本学所蔵のチベット語文献の入力や電子版目録の作成を行っている。これらはチベット研究に貢献することはもちろん、チベット語文化圏の文化を後世に伝える上にも、貴重な役割を果たすものと思われる。

(5) 大蔵経学術用語研究

仏教經典の集大成である大蔵経の精密な索引づくりに取り組んでいる。大蔵経は100巻近い大部の書であり、多様な内容を含んでいて、仏教の研究分野に止まらず、東洋文化全体の研究にとって非常に貴重な文献でもある。その意味では仏教の研究者だけではなく、他分野の研究者にも使いやすい索引づくりが求められており、国内の仏教系6大学が協力、分担して研究を進めている。当研究にはすでに30年の歴史があり、一応の完成は見ているが、より精密なものとして整備し直す作業や、一般向けにもわかりやすい解題辞典などの刊行事業にも取り組んでいる。CD-ROMによる刊行も計画中である。

1991(平成3)年度「指定研究」

代表者 学長・寺川 俊昭

研究名	研究課題及び研究組織
特定研究 大学史編纂研究	研究課題 「近代における大谷大学の成立と展開の研究」 研究員 福島 光哉(チーフ・教授・仏教学) 藤島 建樹(教授・東洋史) 神戸 和磨(教授・真宗学) 延塚 知道(助教授・真宗学) 土戸 敏彦(助教授・教育学) 宮崎 健司(専任講師・日本史) 武田 武磨(真宗総合研究所所長・教授・宗教学) 木村 宣彰(真宗総合研究所主事・助教授・仏教学)

特定研究 国際仏教研究	研究課題 「諸外国における仏教受容の様相の研究」 研究員 多田 稔 (チーフ・教授・英米文学) 安富 信哉 (助教授・真宗学) 加来 雄之 (専任講師・真宗学) 桂華 淳祥 (専任講師・東洋史) 宮下 晴輝 (専任講師・仏教学) 武田 武麿 (真宗総合研究所所長・教授・宗教学) 木村 宣彰 (真宗総合研究所主事・助教授・仏教学)
特定研究 大学開放研究	研究課題 「大谷大学の大学開放と生涯学習の在り方についての研究」 研究員 大竹 鑑 (チーフ・教授・教育学) 片野 道雄 (教授・仏教学) 大内 文雄 (助教授・中国史) 禿 憲仁 (助教授・ドイツ文学) 武田 武麿 (真宗総合研究所所長・教授・宗教学) 木村 宣彰 (真宗総合研究所主事・助教授・仏教学)
委託研究 真宗史料研究	研究課題 「東本願寺近世近代史料の研究と翻刻並びに出版」 研究員 大桑 斉 (チーフ・教授・日本近世史) 木場 明志 (助教授・日本近代史) 草野 顕之 (専任講師・日本仏教史) 嘱託研究員 上場 顕雄 (本学非常勤講師・日本仏教史) 福島 和人 (大谷高等学校教諭・日本近代思想史) 西田 真因 (真宗大谷派教学研究研究所研究員・真宗教理史) 谷端 昭夫 (裏千家学園講師・日本文化史)
委託研究 西藏文献研究	研究課題 「大谷大学所蔵の北京版大蔵経及び蔵外文献の文献研究」 研究員 小川 一乗 (チーフ・教授・仏教学) 片野 道雄 (教授・仏教学) 小谷信千代 (助教授・仏教学) 白館 戒雲 (専任講師・仏教学) 嘱託研究員 松田 和信 (元非常勤講師・仏教学)
委託研究 大蔵経学術用語研究	研究課題 「『大正新脩大蔵経』毘曇部関係典籍における学術用語の研究」 研究員 鍵主 良敬 (チーフ・教授・仏教学) 古田 和弘 (教授・仏教学) 木村 宣彰 (助教授・仏教学) 一色 順心 (専任講師・仏教学) 兵藤 一夫 (専任講師・仏教学) 山野 俊郎 (専任講師・仏教学) 嘱託研究員 織田 顕祐 (本学非常勤講師・仏教学)

1991 (平成3) 年度「一般研究」

(A)共同研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
沙加戸 弘	研究課題 「『親鸞聖人御絵伝』絵解の基礎的研究」 研究員 沙加戸 弘 (本学助教授・国文学) 後小路 薫 (本学専任講師・国文学) 嘱託研究員 阪口 弘之 (大阪市立大学教授・国文学) 林 久美子 (梅花短期大学講師・国文学) 吉田ひろの (京都市立烏丸中学校教諭・国文学)	100万円

長崎 法潤	研究課題 「仏教学教育法の研究」 研究員 長崎 法潤 (本学教授・仏教学) 小谷信千代 (本学助教授・仏教学) 木村 宣彰 (本学助教授・仏教学) 吉元 信行 (本学助教授・仏教学) 一色 順心 (本学専任講師・仏教学)	100万円
神戸 和麿	研究課題 「清沢満之の研究—信仰・思想・実践—」 研究員 神戸 和麿 (本学教授・真宗学) 小野 蓮明 (本学教授・真宗学) 安富 信哉 (本学助教授・真宗学) 延塚 知道 (本学助教授・真宗学) 三明 智彰 (本学専任講師・真宗学) 安藤 文雄 (本学専任講師・真宗学) 加来 雄之 (本学専任講師・真宗学) 藤嶽 明信 (本学専任講師・真宗学) 嘱託研究員 一楽 真 (本学助手・真宗学)	100万円

(B)個人研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
兵藤 一夫	研究課題 「『現観莊嚴論』の研究」 研究員 兵藤 一夫 (本学専任講師・仏教学)	50万円
桂華 淳祥	研究課題 「明清時代江南における社会と仏教の基礎的研究」 研究員 桂華 淳祥 (本学専任講師・東洋史)	50万円

1992 (平成4) 年度「指定研究」

代表者 学長・寺川 俊昭

研究名	研究課題及び研究組織
特定研究 大学史編纂研究	研究課題 「近代における大谷大学の成立と展開の研究」 研究員 福島 光哉 (チーフ・教授・仏教学) 藤島 建樹 (教授・東洋史) 神戸 和麿 (教授・真宗学) 延塚 知道 (助教授・真宗学) 三明 智彰 (専任講師・真宗学) 宮崎 健司 (専任講師・日本史) 武田 武麿 (真宗総合研究所所長・教授・宗教学) 宮下 晴輝 (真宗総合研究所主事・助教授・仏教学)
特定研究 国際仏教研究	研究課題 「諸外国における仏教受容の様相の研究」 研究員 多田 稔 (チーフ・教授・英文学) 安富 信哉 (助教授・真宗学) 加来 雄之 (専任講師・真宗学) 桂華 淳祥 (専任講師・東洋史) RHODES Robert Franklin (専任講師・仏教学) 武田 武麿 (真宗総合研究所所長・教授・宗教学) 宮下 晴輝 (真宗総合研究所主事・助教授・仏教学) 嘱託研究員 樋口 章信 (本学非常勤講師・真宗学)

委託研究 真宗史料研究	研究課題 「東本願寺近世近代史料の研究と翻刻並びに出版」 研究員 大桑 齊 (チーフ・教授・日本近世史) 木場 明志 (助教授・日本近代史) 草野 顕之 (専任講師・日本仏教史) 嘱託研究員 上場 顕雄 (本学非常勤講師・日本仏教史) 福島 和人 (元大谷高校教諭・日本近代思想史) 西田 真因 (真宗大谷派教学研究研究所研究員・真宗教理史) 谷端 昭夫 (裏千家学園講師・日本文化史)
委託研究 西藏文献研究	研究課題 「大谷大学所蔵の北京版大蔵経及び蔵外文献の文献研究」 研究員 小川 一乗 (チーフ・教授・仏教学) 片野 道雄 (教授・仏教学) 小谷信千代 (助教授・仏教学) 白館 戒雲 (助教授・仏教学)
委託研究 大蔵経学術用語研究	研究課題 「『大正新脩大蔵経』寶積部関係典籍における学術用語の研究」 研究員 鍵主 良敬 (チーフ・教授・仏教学) 古田 和弘 (教授・仏教学) 一色 順心 (助教授・仏教学) 木村 宣彰 (助教授・仏教学) 織田 顕祐 (専任講師・仏教学) 兵藤 一夫 (専任講師・仏教学) 山野 俊郎 (専任講師・仏教学)

1992 (平成4) 年度「一般研究」

(A)共同研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
神戸 和麿	研究課題 「清沢満之の研究—信仰・思想・実践—」 研究員 神戸 和麿 (教授・真宗学) 小野 蓮明 (教授・真宗学) 安富 信哉 (助教授・真宗学) 延塚 知道 (助教授・真宗学) 安藤 文雄 (専任講師・真宗学) 加来 雄之 (専任講師・真宗学) 藤嶽 明信 (専任講師・真宗学) 三明 智彰 (専任講師・真宗学) 嘱託研究員 一楽 真 (助手・真宗学)	200万円
長崎 法潤	研究課題 「仏教学教育法の研究」 研究員 長崎 法潤 (教授・仏教学) 一色 順心 (助教授・仏教学) 小谷信千代 (助教授・仏教学) 木村 宣彰 (助教授・仏教学) 吉元 信行 (助教授・仏教学)	200万円
木場 明志	研究課題 「真宗によるアジア開教・教育事業記事の集成」 研究員 木場 明志 (助教授・歴史学) 桂華 淳祥 (専任講師・歴史学) 嘱託研究員 槻木 瑞生 (同朋大学教授・歴史学) 小島 勝 (龍谷大学教授・歴史学)	200万円

(B)個人研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
中桐 伸吾	研究課題 「体育とスポーツのイメージの計量的分析」 研究員 中桐 伸吾 (助教授・体育学)	100万円

1993（平成5）年度「指定研究」

代表者 学長・寺川 俊昭

研究名	研究課題及び研究組織
特定研究 大学史編纂研究	研究課題 「近代における大谷大学の成立と展開の研究」 研究員 福島 光哉（チーフ・教授） 神戸 和麿（教授） 武田 武麿（教授） 佐々木令信（助教授） 延塚 知道（助教授） 三明 智彰（助教授） 宮崎 健司（専任講師） 藤田 昭彦（真宗総合研究所所長・教授） 宮下 晴輝（真宗総合研究所主事・助教授）
特定研究 国際仏教研究	研究課題 「諸外国における仏教受容の様相の研究」 研究員 多田 稔（チーフ・教授） 安富 信哉（教授） 加来 雄之（専任講師） 桂華 淳祥（専任講師） RHODES Robert Franklin（専任講師） 藤田 昭彦（真宗総合研究所所長・教授） 宮下 晴輝（真宗総合研究所主事・助教授） 嘱託研究員 CARTER John Ross（客員研究員・コルゲート大学教授） 樋口 章信（本学非常勤講師）
委託研究 真宗史料研究	研究課題 「東本願寺近世近代史料の研究と翻刻並びに出版」 研究員 大桑 齐（チーフ・教授） 木場 明志（助教授） 草野 顕之（助教授） 嘱託研究員 上場 顕雄（本学非常勤講師） 福島 和人（本学非常勤講師） 西田 真因（真宗大谷派教学研究研究所研究員） 谷端 昭夫（裏千家学園講師）
委託研究 西藏文献研究	研究課題 「大谷大学所蔵の北京版大蔵経及び蔵外文献の文献研究」 研究員 小川 一乗（チーフ・教授） 片野 道雄（教授） 小谷信千代（助教授） 白館 戒雲（助教授） 兵藤 一夫（専任講師） 嘱託研究員 今枝 由郎（客員研究員・フランス国立科学研究庁教授）
委託研究 大蔵経学術用語研究	研究課題 「『大正新脩大蔵経』寶積部関係典籍における学術用語の研究」 研究員 鍵主 良敬（チーフ・教授） 古田 和弘（教授） 木村 宣彰（助教授） 一色 順心（助教授） 織田 顕祐（専任講師） 山野 俊郎（専任講師）

1993（平成5）年度「一般研究」

(A)共同研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
木場 明志	研究課題 「真宗によるアジア開教・教育事業記事の集成」 研究員 木場 明志（助教授） 桂華 淳祥（専任講師） 嘱託研究員 槻木 瑞生（同朋大学教授） 小島 勝（龍谷大学教授）	120万円
松村 尚子	研究課題 「子ども観・育児観に関する社会史的比較研究」 研究員 松村 尚子（教授） 村瀬 順子（助教授） 滝口 直子（助教授） 関口 敏美（専任講師）	200万円
安富 信哉	研究課題 「近代における仏教の展開—清沢満之の思想形成の研究と基礎資料の集成—」 研究員 安富 信哉（教授） 加来 雄之（専任講師） 嘱託研究員 一楽 真（助手）	200万円

(B)個人研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
池上 哲司	研究課題 「環境と人間—人間環境学の方法論を求めて—」 研究員 池上 哲司（教授） 嘱託研究員 松沢 哲郎（京都大学霊長類研究所助教授） 辻本 雅史（甲南女子大学教育学部教授） 成瀬 哲生（山梨大学文学部助教授）	100万円
三明 智彰	研究課題 「法蔵菩薩論の形成原理の研究—現代真宗教学の原理とその公開に向けて、曾我量深の未公開資料の研究—」 研究員 三明 智彰（助教授）	100万円
若槻 俊秀	研究課題 「宋学形成に果せる韓愈の思想的研究」 研究員 若槻 俊秀（教授）	100万円

1994（平成6）年度「指定研究」

代表者 学長・訓覇 嘩雄

研究名	研究課題及び研究組織
特定研究 大学史編纂研究	研究課題 「近代における大谷大学の成立と展開の研究」 研究員 武田 武磨（チーフ・教授） 神戸 和磨（教授） 佐々木令信（教授） 友田 孝興（教授） 福島 光哉（教授） 延塚 知道（助教授） 三明 智彰（助教授） 宮崎 健司（専任講師） 藤田 昭彦（真宗総合研究所所長・教授） 兵藤 一夫（真宗総合研究所主事・助教授）

特定研究 国際仏教研究	研究課題 「諸外国における仏教受容の様相の研究」 研究員 多田 稔 (チーフ・教授) 安富 信哉 (教授) 宮下 晴輝 (助教授) 加来 雄之 (専任講師) 樋口 章信 (専任講師) RHODES Robert Franklin (専任講師) 渡辺 啓真 (専任講師) 藤田 昭彦 (真宗総合研究所所長・教授) 兵藤 一夫 (真宗総合研究所主事・助教授)
委託研究 真宗史料研究	研究課題 「東本願寺近世近代史料の整理ならびに『真宗史料叢刊』の刊行」 研究員 名畑 崇 (チーフ・教授) 大桑 齊 (教授) 木場 明志 (助教授) 草野 顕之 (助教授) 嘱託研究員 上場 顕雄 (本学非常勤講師) 福島 和人 (本学非常勤講師) 西田 真因 (真宗大谷派教学研究研究所員) 谷端 昭夫 (本学非常勤講師)
委託研究 西藏文献研究	研究課題 「大谷大学所蔵の北京版大蔵経及び蔵外文献の文献研究」 研究員 小川 一乗 (チーフ・教授) 片野 道雄 (教授) 小谷信千代 (助教授) 白館 戒雲 (助教授) 兵藤 一夫 (助教授) 嘱託研究員 今枝 由郎 (フランス国立科学研究センター主任研究員)
委託研究 大蔵経学術用語研究	研究課題 「『大正新脩大蔵経』寶積部関係典籍における学術用語の研究」 研究員 鍵主 良敬 (チーフ・教授) 木村 宣彰 (教授) 古田 和弘 (教授) 一色 順心 (助教授) 織田 顕祐 (専任講師) 山野 俊郎 (専任講師)

1994 (平成6) 年度「一般研究」

(A)共同研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
安富 信哉	研究課題 「近代における仏教の展開—清沢満之の思想形成の研究と基礎資料の集成—」 研究員 安富 信哉 (教授) 一楽 真 (専任講師) 加来 雄之 (専任講師)	200万円
大河内了義	研究課題 「日本思想の歴史的総合的研究」 研究員 大河内了義 (教授) 池上 哲司 (教授) 友田 孝興 (教授) 延塚 知道 (助教授) 門脇 健 (専任講師)	200万円

河内 昭円	研究課題 「唐代釈教文の研究」 研究員 河内 昭円（教授） 若槻 俊秀（教授） 大内 文雄（助教授） 佐藤 義寛（専任講師） 李 青（専任講師）	200万円
佐賀枝夏文	研究課題 「仏教保育研究—その現状・理念・教育体系について—」 研究員 佐賀枝夏文（助教授） 岩田 宗一（教授） 嘱託研究員 大城 邦義（助手）	200万円

(B)個人研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
大桑 斉	研究課題 「近世初期思想史料研究」 研究員 大桑 斉（教授） 嘱託研究員 平田 厚志（龍谷大学助教授） 前田 勉（愛知教育大学助教授） 前田 一郎（本学非常勤講師） 心山 義文（龍谷大学非常勤講師）	100万円
米本 義孝	研究課題 「『ユリシーズ』研究」 研究員 米本 義孝（教授） 嘱託研究員 小田 基（東北大学教授） 秋国 忠教（元立命館大学教授） David Burgess（本学非常勤講師）	100万円

1995（平成7）年度「指定研究」

代表者 学長・訓覇 曄雄

研究名	研究課題及び研究組織
特定研究 大学史編纂研究	研究課題 「近代における大谷大学の成立と展開の研究」 研究員 武田 武磨（チーフ・教授） 神戸 和磨（教授） 佐々木令信（教授） 友田 孝興（教授） 福島 光哉（教授） 門脇 健（助教授） 延塚 知道（助教授） 三明 智彰（助教授） 一楽 真（専任講師） 宮崎 健司（専任講師） 片岡 了（真宗総合研究所所長・教授） 兵藤 一夫（真宗総合研究所主事・助教授）
特定研究 国際仏教研究	研究課題 「諸外国における仏教受容の様相の研究」 研究員 多田 稔（チーフ・教授） 安富 信哉（教授） 宮下 晴輝（助教授） 加来 雄之（専任講師） 樋口 章信（専任講師） RHODES Robert Franklin（専任講師） 渡辺 啓真（専任講師） 片岡 了（真宗総合研究所所長・教授） 兵藤 一夫（真宗総合研究所主事・助教授）

委託研究 真宗史料研究	研究課題 「東本願寺近世近代史料の整理ならびに『真宗史料叢刊』の編纂」 研究員 名畑 崇 (チーフ・教授) 大桑 斉 (教授) 木場 明志 (助教授) 草野 顕之 (助教授) 嘱託研究員 上場 顕雄 (本学非常勤講師) 谷端 昭夫 (本学非常勤講師) 西田 真因 (真宗大谷派教学研究研究所員) 福島 和人 (本学非常勤講師)
委託研究 西藏文献研究	研究課題 「大谷大学所蔵の北京版大蔵経および蔵外文献の研究」 研究員 小川 一乗 (チーフ・教授) 片野 道雄 (教授) 小谷信千代 (助教授) 白館 戒雲 (助教授) 兵藤 一夫 (助教授) 嘱託研究員 今枝 由郎 (フランス国立科学研究センター主任研究員) 福田 洋一 (東洋文庫研究員)
委託研究 大蔵経学術用語研究	研究課題 「『大正新脩大蔵経』経集部関係典籍における学術用語の研究」 研究員 鍵主 良敬 (チーフ・教授) 木村 宣彰 (教授) 古田 和弘 (教授) 一色 順心 (助教授) 織田 顕祐 (専任講師) 山野 俊郎 (専任講師)

1995 (平成7) 年度「一般研究」

(A)共同研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
神戸 和暦	研究課題 「近代における仏教研究の方法論—近代の仏教研究における清沢満之の地位と基礎資料の検討—」 研究員 神戸 和暦 (教授) 一乗 真 (専任講師) 加来 雄之 (専任講師) 嘱託研究員 木越 康 (助手)	200万円
大河内了義	研究課題 「日本思想の歴史的総合的研究」 研究員 大河内了義 (教授) 池上 哲司 (教授) 友田 孝興 (教授) 門脇 健 (助教授) 延塚 知道 (助教授) 宮下 晴輝 (助教授)	200万円

河内 昭円	研究課題 「唐代釈教文の研究」 研究員 河内 昭円（教授） 竺沙 雅章（教授） 若槻 俊秀（教授） 大内 文雄（助教授） 織田 顕祐（専任講師） 佐藤 義寛（専任講師） 山野 俊郎（専任講師） 李 青（専任講師） 嘱託研究員 今場 正美（本学非常勤講師） 武田 秀夫（追手門学院大学教授） 西尾 賢隆（花園大学教授）	200万円
佐賀枝夏文	研究課題 「仏教保育研究—その現状・理念・教育体系について—」 研究員 佐賀枝夏文（助教授） 岩田 宗一（教授） 嘱託研究員 河村 光子（村松保育園長） 藤 兼晃（大野幼稚園長） 間野 文雄（住道幼稚園長） 脇淵 徹映（多良第一保育園長） 大城 邦義（助手）	200万円

(B)個人研究

研究代表者	研究課題及び研究組織	補助金
安藤 文雄	研究課題 『『選択本願念仏集』の研究』 研究員 安藤 文雄（助教授）	100万円
泉 恵機	研究課題 「高木顕明の研究」 研究員 泉 恵機（専任講師）	100万円
宮崎 健司	研究課題 「正倉院文書より見た古代仏教に関する研究」 研究員 宮崎 健司（専任講師） 嘱託研究員 堅田 理（花園大学非常勤講師） 櫻井 信也（蒲生町史編集室）	100万円

※表の記載はすべて『研究所報』による。

2. 公開講座

真宗総合研究所の特定研究「大学開放と生涯学習の研究」において、本学独自の公開講座のあり方について検討を重ね、その結果、1990（平成2）年に公開講座が開設された。

大学の閉鎖性を打ち破り、本学の「社会的使命」と「研究・教育の活性化」に資するものでなければならないという視点から、必ず本学の教職員が講座を担当し、対話の姿勢をより大切にすることとし、講座名を「開放セミナー」とした。

「開放セミナー」の開設にあたってその理念、運営方法などについて検討を重ねた結果が「趣意書」にまとめられた。以下にその趣旨を要約する。

「趣意書」

「公開講座」の前提および開設の根拠

近年、日本社会は高度に経済発展するにつれ、価値観の変化・所得水準の向上・余暇時間の増大・高学歴化・高齢化など変化が著しい。人々の意識にも物の豊かさよりも心の豊かさを求める兆しが見られる。教育の分野に対しても、従来の教育体系にとどまらない多様な要請が強

まっております、行政にあっても生涯学習を推進している。

このような社会の変化と、大学をとりまく危機的状況は、新しい大学の在り方を問うていることに他ならないが、大学がこれらの要請に応えるためには、大学が自らの主体性を確立し、その理念を明確にする必要がある。

本学が社会的要請に応じて「公開講座」を開設する根拠は、およそ次の諸点に求められる。

- ①多様な学習の要請に応える本学の社会的使命
- ②地域社会の知的活動の中核としての学習機会の提供
- ③本学の研究・教育の開放と学問的伝統や学風の公開
- ④「象牙の塔」式な学問の閉鎖性の打破と開放
- ⑤本学の研究・教育の自己点検と活性化
- ⑥本学学生に対する学習意欲の高揚・刺激

本講座の開設は生活の変化を背景とした社会人の多様な教育的要請に対処するという消極的理由によるのではなく、公開を通して自らの閉鎖性を打ち破り、研究・教育を活性化するという積極的な意義によって決断されるべきであり、このことこそ本学の建学の精神の具現化であろう。

「公開講座」の基本性格及び留意点

本学が「公開講座」を開設する際の留意すべき点として、次のような諸点が挙げられる。

①講座の基本精神の確認《建学の精神に立ち「質」を重視》

民間企業が行う営利を目的として「量」を重視するカルチャーセンターとは異なり、本学の講座は佐々木月樵の強調する「仏教の開放と社会への普及」という精神を踏まえ、講師と学習者との間の真摯な「対話」や学習への取り組みの「質」を重視し、このことを問い続けるべきである。

②学習目的の明確化《「象牙の塔」式の閉鎖性の打破》

単なる社会へのサービスや奉仕としてではなく、本学の最高の研究・教育を社会に開放することを目的とし、それを内外に示し実践することにより、本学の研究者が社会との接点を有することとなり、「象牙の塔」式な閉鎖性を打破できるであろう。

③一定の教育水準の維持《本学教員による研究・教育の開放》

本学教員が講師を務めることにより、多様な学習者に対して適正に応えつつ、同時に一定の学習水準を維持することが大切である。

④講座内容の一貫性《入門ではなく、基礎的・専門的な内容》

すでに種々のカルチャーセンター等において、入門的・概説的なものを学び、それに飽きたらず、さらに高度な学習を期する人々の要請に応えるべきである。永い伝統と、高度な研究成果を蓄積してきた本学は、その内容を積極的に公開し、独自性と一貫性を堅持すべきである。

⑤学習形態への配慮《定型的講義より「対話」形式を重視》

「公開講座」の性格・目的に照らし、講師と学習者の「対話」を重視することが望ましい。「対話」を重視した学習形態は、高度な研究成果に基づく内容を、専門用語ではなく平易に語ることを要請するであろう。このことが本学の社会的使命を自己確認し、研究・教育の閉鎖性を自己点検することとなる。

⑥講座開講の場所への配慮《本学で開催し、本学の学風を顕示》

図書館や研究所などを併設し、学問の香り高いキャンパスの中で行う講座は、特別の学習効果を挙げるであろう。また、従来本学に立ち入ることのなかった多くの人々に、本学に対する理解を深めてもらう効果も期待できる。

⑦教育・研究の活性化《教員の研究の点検、学生の意欲を刺激》

本学の教員が、「公開講座」を通じて自らの研究の成果を専門研究者以外の人に、高度な内容を平易に語ることにより、その普遍性・妥当性を確かめることになろう。他方、講座の受講生は、高度な研究成果を学ぶことによって「生涯学習」の意義を見出しうるであろう。

講座の講師は年功や順番にこだわらず選定されるべきである。講座内容を書物として刊行することも検討すべきである。

⑧運営・組織の工夫《広報活動の相互連関と統一組織体の確保》

「公開講座」には広報的側面もあり、「研究・教育」「社会的使命」など多面的要素を持つ。旧来の大学機構の一部局のみで対応すれば大切な点を見落とし、運営面で遺漏を生ずる恐れがある。全学的な統括組織を考慮すべきである。

「開放セミナー」の形態は、1991（平成3）年より、前期2講座・後期2講座の計4講座を年間に行い、現在に至っている。なお1995（平成7）年より、セミナー開講の担当業務が、新設の学术交流センターに移管され、他の生涯学習機会とともに運用されることとなった。

開放セミナー開講一覧

1990（平成2）年度

テーマ：親鸞の世界—『教行信証』—

講師：寺川 俊昭 学長

テーマ：文化人類学から見た自然、「風景」、宗教

講師：岩田 慶治 教授

1991（平成3）年度

〈前期〉

木曜日 テーマ：平安・鎌倉時代説話文学における神と仏

講師：渡辺 貞麿 教授

土曜日 テーマ：人間開華の旅—『華嚴経』—

講師：鍵主 良敬 教授

〈後期〉

水曜日 テーマ：大乘仏教の原点を問う—龍樹の『中論』—

講師：小川 一乗 教授

土曜日 テーマ：おしえの史的検証・浄土真宗—出家と在家—

講師：名畑 崇 教授

1992（平成4）年度

〈前期〉

水曜日 テーマ：独立者・親鸞の大地—『歎異抄』に学ぶ—

講師：小野 蓮明 教授

土曜日 テーマ：ヴァイツゼッカー大統領を読む

講師：大河内 了義 教授

〈後期〉

水曜日 テーマ：平等の理想と人間変革への道—『法華経』を読む—

講師：福島 光哉 教授

土曜日 テーマ：東と西の出会いにみる美と信の世界

講師：多田 稔 教授

1993（平成5）年度

〈前期〉

水曜日 テーマ：王舎城の人びとの救い—観無量寿経に聞く—

講師：神戸 和磨 教授

土曜日 テーマ：清沢満之の教育論—教育本質論的考察—

講師：大竹 鑑 教授

〈後期〉

水曜日 テーマ：人間性の探究—『涅槃経』に学ぶ—

講師：古田 和弘 教授

土曜日 テーマ：宮沢賢治の世界—こころの軌跡をたどりながら—

講師：西田 良子 教授

1994（平成6）年度

〈前期〉

水曜日 テーマ：人間成就の教え—『大無量寿経』にきく—

講師：安富 信哉 教授

土曜日 テーマ：敦煌文献の世界—写経にみる仏教信仰—

講師：竺沙 雅章 教授

〈後期〉

水曜日 テーマ：大乘の仏道を求めて—『維摩経』—

講師：木村 宣彰 教授

土曜日 テーマ：宗教の出会いと受容—比較宗教学への誘い—

講師：武田 武磨 教授

1995（平成7）年度

〈前期〉（休講）

〈後期〉

水曜日 テーマ：大悲の人 蓮如

講師：延塚 知道 助教授

土曜日 テーマ：ニヒリズムの問題—ニーチェと現代日本—

講師：大河内 了義 教授

3. 出版活動

真宗総合研究所における諸活動を学内外に公表する手段として出版活動を行っている。研究所全体の活動を公表するための「所報」、研究成果の公表のための「紀要」などを定期的に発行している。また、プロジェクトごとの研究成果の公表として、多くの叢書の発行を行っている。その主なものは以下のとおりである。

真宗総合研究所研究所報
 真宗総合研究所研究紀要
 真宗学事関係文献目録
 西藏文献目録索引
 西藏大蔵経丹殊爾勘同目録Ⅱ-I
 大谷大学所蔵西藏蔵外文献叢書
 大唐西域記
 善釈要集
 中観学説決択集
 善説の陽光
 意趣再明
 真宗学事資料叢書
 上首寮日記Ⅰ
 上首寮日記Ⅱ
 上首寮日記Ⅲ
 上首寮日記Ⅳ
 敵如上人御一代記Ⅰ
 條規学則集1・2
 海外における仏教研究の方法と課題
 大乘の至極 浄土真宗（国際真宗学会第6回大会報告）

4. 研究者の受け入れ

真宗総合研究所は、設立の理念に基づき、当初から専任の研究職員を置かないことをその特色としてきた。本学の教員が学長の指名により研究に従事するか、もしくは研究所委員会により採択された自らの研究課題について研究を進めるのである。

これと同時に、本学教員以外の研究者も共同して研究にあたることができるよう配慮されている。学外の研究者を招聘する制度として、下記の3種がある。

客員研究員 本学が研究の交流を目的として国内・国外より受け入れた者。

特別研究員 本学の研修員規程により受け入れた者。

嘱託研究員 主として学外の学識経験者。

客員研究員は大学が招聘する者で、これまでにウィスコンシン大学、コルゲート大学などの研究者を受け入れてきている。客員研究員・特別研究員は指定研究等共同研究とは独立して研究活動に従事することを主とし、必要に応じて共同研究にも参加することができる。

これに対し、指定研究・一般研究を通じて本学研究者と共同して研究にあたるものが嘱託研究員である。それぞれの専門分野の学識を活かしあう共同研究は、本学の研究活動を活性化し、より充実した成果を挙げることにつながった、各共同研究の効果には大きなものがあると言うべきであろう。

嘱託研究員として本学の研究に参加した学外者には次のような立場の人々があった。

1991（平成3）年 指定研究 大谷高等学校教諭、真宗大谷派教学研究員、裏千家学

		園講師
	一般研究	大阪市立大学教授、梅花短期大学講師、市立烏丸中学校教諭
1992（平成4）年	一般研究	同朋大学教授、龍谷大学教授
1993（平成5）年	指定研究	コルゲート大学教授（客員研究員）、真宗大谷派教学研究所 研究員、裏千家学園講師、フランス国立科学研究庁教授（客 員研究員）
	一般研究	同朋大学教授、龍谷大学教授、京都大学霊長類研究所助教 授、甲南女子大学教授、山梨大学助教授
1994（平成6）年	指定研究	真宗大谷派教学研究所所員、フランス国立科学研究センター 主任研究員
	一般研究	龍谷大学助教授、愛知教育大学助教授、東北大学教授、元立 命館大学教授
1995（平成7）年	指定研究	真宗大谷派教学研究所所員、フランス国立科学研究センター 主任研究員、東洋文庫研究員
	一般研究	追手門学院大学教授、花園大学教授、村松保育園長、大野幼 稚園長、住道幼稚園長、多良第一保育園長、花園大学講師、 蒲生町史編纂室員

※研究テーマなどの詳細は、本章第1項参照。また、本学非常勤講師は省略した。

第2節 人間解放—同和教育資料室—

大谷大学は、親鸞の精神に立ち、「人間」を探求する大学である。このような本学において、部落差別の問題をはじめとしてさまざまな「差別」の問題は、人間それ自身の在り方に深くかかわる問題として位置づけられている。つまり、大谷大学にとって、同和教育を推進することは建学の精神の具体化を推進することと同質のものであるとの認識に立っている。そのような位置づけの上で、本学では以下に述べるように、同和教育資料室を設置するとともに、授業や学習会活動のみでなく、さまざまな形で差別の問題に取り組み、同和・人権教育を推進してきた。同和教育資料室は、それにかかわるさまざまな業務に携わっている。

同和教育資料室は、本学における同和教育を推進するために、1980年に設置されて今日に至っているが、室長（文学部長）、主事以下4名の室員（主事、室員の任期は2年）、および嘱託の事務員で構成されている。なお資料室に関する事務は、学務課の所管である。

業務としては、同和教育・研究推進のための図書、視聴覚資料の収集と閲覧、貸出等を中心として、同和教育委員会や京都私立大学人権問題懇話会などの業務、「人権相談コーナー」にかかわる業務など、差別問題、同和・人権教育の推進や研究に関するあらゆる業務を行っている。

図書については、部落差別の問題に関する基礎資料はほぼ揃えられており、その他にも、民族差別、性差別等、さまざまな差別の問題に関する図書が設置されている。資料室内での閲覧はもとより、図書館に準じての貸し出しも行っている。

○同和教育資料室所有図書配架

- ・国家と社会 ・民族と人権 ・福祉 ・環境 ・医療 ・教育 ・障害者 ・高齢者
- ・部落問題 ・歴史 ・天皇制 ・戦争 ・民俗学 ・女性学 ・人種、民族 ・真宗
- ・仏教 ・その他各種宗教 ・哲学 ・その他 ・雑誌 ・事典 ・新聞 ・年鑑など

○同和教育資料室所有図書総冊数

約6000冊

○同和教育資料室年間図書費用（1995年度）

¥3,000,000-

○同和教育資料室年間受け入れ冊数（1995年度）

約300冊

その他、後述する学内の同和・人権問題の学習会の講演記録を、『人権問題を共に考えよう』と題して発行している。現在まで3号をかぞえるが、その編集、発行も資料室の業務として行っている。

刊行書一覧

『人権問題を共に考えよう』第1号 1991年3月31日発行

部落差別と天皇制—元号問題を中心に—

菅 孝行氏

同和問題の視点

吉田 賢作氏

識字と部落差別

土方 鉄氏

日本における外国人労働者の差別と人権—改正入国管理法の意味するもの—

丹羽 雅雄氏

『人権問題を共に考えよう』第2号 1993年3月31日発行

日本近代における真宗と部落問題—武内了温の思想を重点に—
闇のなかで輝く人たち
思想表現と差別語
私の出遇いたい自分—揺れる水平をみつめて—

師岡 佑行氏
福井 達雨氏
灘本 昌久氏
岡部伊都子氏

『人権問題を共に考えよう』第3号 1995年3月31日発行

今 差別をどう考えるか
インドのカースト差別と女性問題
よりよき隣人として
差別と表現

竹田 青嗣氏
山下 明子氏
徐 正禹氏
渡辺 俊雄氏

以下に、資料室にかかわる活動や業務を紹介する。

1. 同和教育委員会

「大谷大学同和教育資料室規程」にのっとり、資料室に同和教育委員会が置かれている。

委員会の委員長は室長が当たり、資料室の主事、室員、全当局員、教育職員、事務職員の中から学長が任命したのものによって構成されている。現在の委員は、委員長以下39名であり、任期は2年である。

委員会は、「本学樹立の精神に基づき、同和教育に関する研究と教育を推進する」ことを目的としているが、その目的を機能的に遂行するために、「研究」にかかわる第1部会と、殊に学内の同和・人権問題の教育、研修にかかわる第2部会を設置し、各部会は、部会長を中心に活発な活動を行っている。

第1部会は、特に1993年以来、「差別の問題から見た業・宿業」という一貫したテーマを設けて、一年に2、3回のペースで、研究発表などを行っている。

仏教と差別の問題との関わりの中で、仏教として伝えられ、説かれてきた業・宿業の教説が、「差別」を生産し、温存してきたという歴史的事実があると同時に、一方で、被差別者に生きる力を与えてきたものであるとして、常に注目されてきた問題であることに見合って、このテーマが設定されたものである。

過去4年間に行われた研究発表は以下の通りである。

同和教育委員会第1部会 「業」に関する研究活動

1993年2月26日

安藤 智信「中国における業論の基盤によせる試論」

1993年12月8日

宮下 晴輝「初期仏教経典における業の表現について」

1994年3月8日

吉元 信行「原始仏教からアピダルマ仏教への業論の展開」

1994年7月21日

兵藤 一夫「仏教における輪廻（生死）の考え方の変遷」

—とくに二種の生死を中心として—

1994年12月15日

安藤 文雄「『浄土論註』における「業」の問題」

1995年9月26日

織田 顕祐「インド大乘仏教と中国浄土仏教の間に位置する諸経論における業の問題」

1995年1月16日

神戸 和磨「浄土真宗における業思想と差別の問題に関して」

1996年5月16日

加来 雄之「『真宗の教学における宿業の問題』を読んで」

第2部会は、特に学内の学習会の企画・実行を中心に活動している。本学では、全学を対象とした「人権問題を共に考えよう 全学学習会」を年間2回、教職員対象の学習会を年1回行っている。第2部会は、これらの企画立案と実行にかかわるさまざまな活動を行っているが、以下に1987年度以降の学習会の期日、テーマ、及び講師を紹介する。

同和教育委員会 第2部会活動

宗教講演会（宗教シンポジウム）

1987年11月14日 於：2301教室

師岡 祐行氏「日本近代における真宗と部落の問題—武内了温の思想を重点に一」

人権問題を共に考えよう 全学学習会

1989年11月2日 於：2301教室

菅 孝行氏「部落差別と天皇制—元号問題を中心に—」

1990年7月11日 於：講堂

土方 鉄氏「識字と部落差別」

1990年12月13日 於：1111教室

丹羽 雅雄氏「日本における外国人労働者の差別と人権
—改正入国管理法の意味するもの—」

1991年7月3日 於：講堂

福井 達雨氏「闇の中で輝く人たち」

1992年7月1日 於：講堂

岡部伊都子氏「私の出逢いたい自分—揺れる水平をみつめて—」

1992年12月3日 於：講堂

映画「橋のない川」

1993年6月30日 於：1113教室

山下 明子氏「インドのカースト差別と女性問題」

1993年12月6日 於：講堂

映画「サラームボンベイ！」

1994年7月6日 於：講堂

徐 正禹氏「よりよき隣人として」

1994年12月7日 於：講堂

映画「月はどっちに出ている」

1995年7月5日 於：講堂

千田 夏光氏「戦争と人権と差別—従軍慰安婦問題を通して—」

1995年12月6日 於：講堂

金城 実氏「戦争と人権と差別—生いたちを語る—」

1996年7月10日 於：講堂

新屋 英子氏 一人芝居「身世打鈴（シンセタリョン）」

教職員を対象とした同和問題学習会

1990年5月13日 於：多目的ホール

吉田 賢作氏「同和問題の視点」

1991年10月17日 於：講堂

灘本 昌久氏「思想表現と差別語」

1992年12月11日 於：1111教室

竹田 青嗣氏「今 差別をどう考えるか」

1993年12月10日 於：多目的ホール

吉崎 昌一氏「アイヌ民族の由来と今後の諸問題—民族学・考古学の立場から—」

1994年10月26日 於：1113教室

渡辺 俊雄氏「差別と表現」

1995年10月25日 於：1113教室

田宮 武氏「若者の人権意識を考える—調査結果にもとづいて—」

また、授業としての同和・人権教育のカリキュラムの設定や見直し、学外の諸種の研修会、集会への参加も行っている。その他、大谷大学としての差別問題の基本的理解を示したパンフレット『同和問題学習の課題』の編集を行っている。

2. 同和・人権問題に関する開講科目

本学において「同和教育」の授業が開講されてから、すでに30年近く経つが、今日までに諸種の手直しが行われてきた。現状においては、3つの要素を基本としてカリキュラムを組んでいる。

その一つは、本学が宗門立の大学として真宗大谷派と深く関わっていることにより、「部落差別の問題と浄土真宗（あるいは本願寺教団）」という要素を中心に置くことが要請される。その他は、「被差別部落の歴史」、あるいは「特に日本における差別の歴史」に関する要素、今一つは、「部落差別をはじめさまざまな差別の現場に関わって、そこから人間を見ていく」という要素である。これらの三つは、それぞれ全く切り離して考えることはできないが、一応これらのそれぞれを特に意識した授業を開講したいということが、基本的な願いである。

ちなみに1995年度は、この願いに基づき次のような同和教育・人権教育の講義が開設されている。

同和教育・人権教育に関する開講科目

—文学部—

(自由科目Ⅰ群)

民族と人権—民族差別の問題から問われるもの— (4単位)

社会と人権—「出来事」からの考察— (4単位)

(自由科目Ⅱ群)

同和教育1—部落差別と浄土真宗— (4単位)

同和教育 2—部落解放運動の精神に学ぶ— (4単位)

同和教育 3—人間解放への教育— (4単位)

同和教育 4—部落問題と現代社会— (4単位)

いずれも、自由科目として卒業所要単位ともなる。

同和教育 1・2は次の諸課程における単位ともなる。

教職課程 必修

社会教育課程 選択 (社会教育特講Ⅲに充当)

大谷派教師課程 必修

また、同和教育 3・4は次の諸課程における単位ともなる。

教職課程 必修

社会教育課程 選択 (社会教育特講Ⅲに充当)

—短期大学部—

(自由科目Ⅱ群)

同和教育 1—人間の解放とは何か— (4単位)

(諸課程開講科目)

同和教育 2—差別と人権・共生社会をめざして— (2単位・前期)

同和教育 3—部落解放と教育の歴史— (2単位・後期)

同和教育 1は、仏教科・文化学科・幼児教育科においては自由科目として卒業所要単位ともなる。また、同和教育 1・2・3とも次の諸課程における単位ともなる。

教職課程

中学校 2種 必修

幼稚園 2種 必修

保母養成課程 必修

大谷派教師課程 必修

諸課程の取得希望以外でも、同和教育に対する正しい認識のために、積極的に受講されることが望まれる。

3. 私立大学人権問題懇話会

1985年に、京都私立大学人権問題懇話会 (私大懇) が結成された。これは、京都府下の私立大学が、同和・人権教育に関して相互に情報交換するとともに、共同で学習の場を開き、各大学における同和・人権教育の一層の推進を願って結成されたものである。同和教育資料室は、これに関する業務も行っている。

私大懇は、現在では、本学をはじめ、京都外国語大学、京都産業大学、花園大学、佛教大学、龍谷大学 (以上幹事校)、華頂短期大学、京都女子大学、京都文教短期大学、光華女子大学、嵯峨美術短期大学、種智院大学、西山短期大学、の13校で構成されており、幹事校6校が一年毎に会長校となり、本学は1995年度にも会長校の役目を果たした。

私大懇独自の活動としては、年二回の総会、年間数回の幹事校会をはじめ、学長懇談会 (年一回)、共同研究会 (年二回)、私大懇ニュースの発行 (年数回) 等がある。

また、本学は部落解放基本法制定要求京都府実行委員会に私大懇として参画していることから、要請に応じて、それにかかわる集会、研修会等へも、主事、室員、同和教育委員会委員が参

加している。

4. 人権問題相談

同和教育資料室では、人権相談コーナーを設けている。

これは、本学の学生、教職員が、人権問題にかかわる問題を抱えている場合に、その相談に応じるために開かれている相談コーナーである。

人権に関する問題や悩みをもつ学生はかなり多いと思われる。社会情勢の変化や、同和・人権教育の進展にしたがって、家族間での人権感覚や問題認識のギャップからくるトラブルや、トラブルに至らずとも悩みを抱えこむケースは意外に多い。今までのところ、被差別部落出身者、在日韓国・朝鮮人などと友人やボーイフレンド、ガールフレンドとして付き合っている学生の場合、家族からの反対をうけているというケースの相談がほとんどである。

そうした場合に、もちろん秘密厳守の上であるが、必要な知識を与えたり、問題を整理したりすることのお手伝いをしながら、本人が問題を受け止め、解決していく手助けをしている。

5. その他—新入生を対象としたクラス別同和问题学習会—

新入生を対象としたクラス別同和问题学習会は、当局によって大学として行われるものであり、同和教育資料室の直接の業務ではないが、本学の同和・人権教育に関わる重要な事柄であることから、ここで述べておきたい。

本学では、人間が人間として生きていく上で、他の人の痛みを知り、差別を痛む心がいかに大切なものであるかを考え、そのことが、本学の樹立の精神に深くかかわる事柄であると認識している。その認識を共有しあい、理解を深めるために、新入生の全員に、クラス指導の教員と共に学習を深めるために、クラス別の同和问题学習を行っている。

同和教育委員会が特にこのために編集した『同和问题学習の課題』というパンフレットを用いて、毎年大体6月ころに行うものであるが、そのための事前学習会と反省会も開催されている。

第3節 情報の蓄積と公開—図書館—

1. 蔵書概況

本学の図書館は、1665（寛文5）年に創設された東本願寺の学寮が、1755（宝暦5）年高倉学寮となり、宗学研修の根本道場とされて以来の歴史を持つ、伝統ある図書館である。その高倉学寮時代の収蔵資料を基盤として、特色ある蔵書構成を誇っている。すなわち、仏教思想を中心とする広く東洋文化に資すべき仏教書・漢籍はもとより、人文・社会科学の研究分野に必要なものまでを含んでいる。こうした蔵書の一部は、先学などにより寄贈された資料によって構成されている。更にその中には北京版チベット大蔵経を始め、重要文化財に指定されている東宮権大夫小野宮資房の日記である「春記」、宋拓本など、貴重な資料を数多く蔵している。現在までの蔵書数は60数万冊にのぼり、文科系単科大学としては質・量ともに高い評価を得ている。

(1) 寄贈図書受け入れの状況

敬称略

寄贈者	受け入れ	部数、冊数、その他
福 永 和 利	1993（平成5）	4,627部
寿 岳 文 章	1993（平成5）	1,236部
谷 友 幸	1995（平成7）	約1,500冊

(2) 大谷大学図書館所蔵 貴重資料〔1995（平成7）年3月現在、点数〕

a. 重要文化財

【国指定重要文化財（5点）】

宋拓化度寺故僧邕禅師舍利塔銘	1帖
宋拓信行禅師興教之碑	1帖
春記	1巻
高野雑筆集	2冊
判比量論	1巻

b. 本学指定貴重書

区分	点数	内 容
余 甲	231	重文1点、春日版成唯識論ほか
余 乙	92	重文1点、敦煌写経38点ほか
余 丙	234	高麗版大覚国師文集ほか
余 丁	166	羅漢講式、法隆寺一切経ほか
宗 甲	103	文明版三帖和讃、末灯鈔ほか
宗 乙	6	宣如上人御消息、御文ほか
宗 丙	356	唯信鈔文意、親鸞伝絵写本ほか
宗 丁	8	安楽集写本ほか
外 甲	50	元版史記、五山版寒山詩集ほか
外 乙	17	重文3点、後白河院庁下文ほか
外 丙	176	奈良絵本、華夷訳語ほか
外 丁	12	顔真卿争座位帖ほか

特 貴	6	親鸞聖人真筆 1 点ほか
洋 書	42	カント初版本コレクションほか
総 計	1,499	

※ 余は仏教関係資料、宗は真宗関係資料、外はその他の分野
 甲・乙は特に貴重な資料
 甲・丙は冊子本、乙・丁は卷子本および法帖

2. 展観活動

本学図書館では、貴重な資料を大谷大学の研究者や学生の閲覧に供するだけでなく、その存在を広く社会に知らせ、内外の研究者に公開する努力も続けている。展観活動は通常の年間行事として行う場合と、学内外の諸行事に協賛する形で特別展観する場合とがある。近年ではキャンパス見学会なども開催されることになり、来学する高校生や父母兄弟の方々にも興味をもってもらえるよう出展資料にも配慮し、そのつど解説に工夫を凝らした展観目録も刊行している。また他機関の要請を受けて本学の所蔵資料を貸し出すこともあり、資料の公開と保存に多大の努力を払っている。

学内展観

展 観 期 間	展 観 テ ー マ	備 考
1991. 4. 16	1991. 5. 16 館蔵貴重特別展観	新入生歓迎
1991. 6. 7	1991. 6. 21 館蔵善本展—真宗関係を中心として	真宗連合学会第38回大会協賛
1991. 6. 8	館蔵善本展—真宗関係を中心として	比較思想学会第18回大会協賛
1991. 6. 22	館蔵貴重書展	学会協賛
1991. 6. 24	1991. 7. 05 貴重資料選	
1991. 7. 25	大谷大学・大谷大学短期大学部説明会のための善本資料展観	
1991. 7. 27	1991. 7. 29 フリースペースへの誘い キャンパス見学会のための善本資料展観	
1991. 10. 05	1991. 10. 19 フリースペースへの誘い キャンパス見学会のための善本資料展観	
1991. 10. 26	特別稀観書展観	父母懇談会
1991. 11. 13	1991. 11. 22 書とその周辺展	紫明祭協賛
1991. 12. 4	1991. 12. 20 「論語」諸本展観	
1992. 4. 25	キャンパス見学会のための善本資料展観	
1992. 4. 28	説話・伝承学会協賛展観	平成4年度春季大会
1992. 6. 19	1992. 7. 3 貴重資料展観	
1992. 7. 15	貴重図書展観	
1992. 10. 03	1992. 10. 17 キャンパス見学会のための善本資料展観	
1992. 10. 05	1992. 10. 17 善本資料展観	
1992. 12. 12	1992. 12. 14 第77回 大蔵会展観	
1992. 12. 19	仏教文学会例会協賛展観	

1993. 2. 17		善本資料展観	
1993. 4. 27		善本資料展観	
1993. 6. 1	1993. 6. 4	仏教関係貴重書展観	文学部国際文化学科開設・短期大学部文化学科開設1周年記念
1993. 7. 14	1993. 7. 23	文化交流の道—東洋から日本へ	
1993. 7. 31	1993. 8. 05	親鸞から現代へ	国際真宗学会第6回大会記念展観
1993. 10. 2	1993. 10. 08	文化交流の道—東洋から日本へ	
1993. 11. 17	1993. 11. 22	館蔵資料展	学園祭協賛
1994. 4. 25	1994. 5. 13	中国古硯とその周辺 禿庵上人の収蔵品を中心として	図録出版記念
1994. 6. 3	1994. 6. 6	仏教文学関係図書展観	仏教文学会平成6年度大会協賛
1994. 6. 20	1994. 7. 1	文化交流の道—仏教と固有の文化	
1994. 7. 22	1994. 8. 2	文化交流の道—仏教と固有の文化	
1994. 9. 22	1994. 9. 30	文化交流の道—仏教と固有の文化	
1994. 10. 5	1994. 10. 7	神田コレクションの世界	
1995. 6. 2	1995. 6. 12	真宗連合学会協賛記念展観	真宗連合学会第42回大会協賛
1995. 6. 23	1995. 7. 14	文化交流の道—文化の発展と伝播	
1995. 6. 24	1995. 6. 26	説話文学関係図書展観	説話文学会平成7年度大会協賛
1995. 7. 29	1995. 8. 2	文化交流の道—文化の発展と伝播	
1995. 10. 4	1995. 10. 21	文化交流の道—文化の発展と伝播	
1995. 11. 4	1995. 11. 11	チベット文献特別展観	
1995. 12. 5	1995. 12. 8	蓮如上人—蓮如へアプローチ 所蔵資料管見	秋季特別展

学外展観出陳資料

出陳資料名	展観テーマ	貸出機関	展観期間	備考
感身覚正記 梅尾明恵上人伝記	宇治人物誌	宇治市歴史資料館	1992. 4. 10:1992. 11. 8	
選択本願念仏集	浄土教の世界 —苦悩する精神史	滋賀県立琵琶湖文化館	1992. 10. 6:1992. 11. 20	
榜葛刺文典 利慶薛陀三喜多引	洋学資料展 江戸期における翻訳の世界	京都大学附属博物館	1992. 12. 1:1992. 12. 9	
選択本願念仏集	鎌倉仏教 —高僧とその美術	奈良国立博物館	1993. 4. 24:1993. 5. 30	
百人一首一夕話	伝説の歌人 —小野小町	大津市歴史博物館	1993. 5. 1:1993. 5. 30	
小補東遊集、延喜式	琵琶湖の船	大津市歴史博物館	1993. 7. 28:1993. 9. 5	
扶桑略記	よみがえる大津京	大津市歴史博物館	1993. 9. 29:1993. 11. 14	
古印 「漢匈奴悪適尸逐王」 「漢婦義胡長」	アジア文明交流展 —邪馬台国への道のり	福岡県立美術館	1993. 10. 9:1993. 11. 14	

古印 「漢匈奴惡適尸逐王」 「漢婦義胡長」	倭人の世界 —韓の東南 大海の中の弥生文化	奈良県立橿原考古 学研究所附属博物 館	1994. 4. 23	1994. 5. 29	
貝葉パーリ語三蔵經 他57点	日本文化の源流をた ずねて —仏典の来た道	豊田短期大学	1994. 9. 27	1994. 10. 3	豊田短期大学開学 5周年桜堂記念図 書館開館記念
聚分韻略	土岐氏の時代 —風月歌舞の世界	岐阜市歴史博物館	1994. 10. 28	1994. 11. 27	
正信念仏偈 ^附 三帖和讃 山科本願寺旧跡之図	蓮如上人 —復興の生涯	安城市歴史博物館	1995. 4. 8	1995. 5. 28	
三國志（2点）	江戸の古代を探る —土に刻まれた歴 史	大津市歴史博物館	1995. 10. 14	1995. 12. 3	
成唯識論了義燈 元亨積書	日本出版文化史展 '96京都	日本書籍出版協会	1996. 2. 3	1996. 2. 25	

3. 出版活動

本学図書館ならではの蔵書の特色を考慮した貴重資料の寄贈・提供の申し出も多いため、寄贈図書目録の整備は継続的な業務として精力的に取り組んでいる。すでに30数年前には、ほぼ完全なカタチでは世界に数部しか存在が確認されていない北京版チベット大蔵經の影印版を出版公開し、国内外のチベット研究者の基本的資料として欠かせない存在となっている。あるいは個別資料の研究・翻刻書の出版を支援したり、所蔵資料の目録・図録も刊行している。また図書館報では順次こうした貴重資料の紹介も掲載するなど、研究活用のための出版事業でも確かな成果をあげている。

大谷大学図書館（大谷大学）出版物

書名	編著者	発行所	発行日	備考
中国古硯図録	大谷大学 図書館/編	大谷大学	1994. 3. 30	
書香（大谷大学図書館報）13号	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1994. 9. 30	
書香（大谷大学図書館報）14号	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1995. 10. 01	
貝葉写本目録	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1996. 3. 15	

第77回大蔵会展観目録	大谷大学/編	大谷大学	1992. 12. 12	
佛教関係貴重書展観目録	大谷大学/編	大谷大学図書館	1993. 6. 1	文学部国際文化学科開設・短期大学部文化学科開設1周年記念
真宗関係貴重資料展観目録 親鸞から現代へ	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1993. 7. 30	
大谷大学図書館資料展観目録 文化交流の道 東洋から日本へ	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1993. 10.	

大谷大学図書館資料展覧目録 文化交流の道 仏教と固有の文化	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1994. 6. 1994. 9.	
神田コレクションの世界	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1994.10.	
大谷大学図書館資料展覧目録 文化交流の道 文化の発展と伝播	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1995. 6.	
大谷大学秋季特別展 蓮如上人 蓮如へアプローチ—所蔵資料管見—	大谷大学 図書館/編	大谷大学図書館	1995.12.	

三教指帰注集の研究	佐藤義寛	大谷大学	1992.10.30	
-----------	------	------	------------	--

4. 図書館概況

昭和36年に竣工した現在の図書館は、当初研究室、講堂を持ち合わせた先進的な図書館・研究棟として注目を集めた。しかし30年を経過した今日では書庫も収容能力を越え、また近年の学生数の増加に対応した閲覧室の座席数の確保も困難な状況となりつつある。一方では従来より開館時間を延長して、学生などの利用に少しでも供せるよう便宜を図っている。図書の年間受け入れ冊数など大きな増減はないが、図書館活動の概況を統計として次に示す。

施設

総延面積 (㎡)	3,701
サービススペース (㎡) (閲覧・視聴覚等)	747
書庫 (㎡)	2,462
事務 (㎡)	237
その他	255
総閲覧座席数 (席)	169
収容可能冊数 (冊)	500,000

経費

年度	図書館総経費(千円)	対大学総経費割合(%)	図書購入費(千円)
平成3年	247,791	11.2	113,080
4	257,626	11.2	111,482
5	298,685	11.6	131,472
6	297,207	7.6	125,115
7	313,469	8.3	131,897

職員数

年度	図書館職員総数	専任	アルバイト
平成3年	21	11	10
4	23	11	12
5	22	12	10
6	22	12	10
7	23	20	3

平成7年度については、制度変更にもない嘱託職員は専任数に含めた。

所 蔵 数

年 度	図書所蔵冊数(冊)	和(冊)	洋(冊)	点字(冊)
平成3年	572,577	453,922	118,481	174
4	584,097	462,831	121,092	174
5	600,350	475,104	124,836	410
6	617,064	487,902	128,679	483
7	633,654	501,019	132,125	510

年 度	雑誌所蔵種類数	和(種類)	洋(種類)	点字(種類)
平成3年	4,168	3,795	372	1
4	4,291	3,912	378	1
5	4,376	3,988	387	1
6	4,484	4,085	395	4
7	4,583	4,168	410	5

年 度	視聴覚資料所蔵数(タイトル)
平成3年	1,043
4	1,073
5	1,086
6	1,243
7	1,301

年間受け入れ数

年 度	図書総受入冊数	購入(冊)	寄贈(冊)	その他(冊)
平成3年	18,567	15,182	1,385	2,000
4	11,730	11,053	445	232
5	16,841	15,503	588	750
6	16,126	14,759	233	1,134
7	16,590	15,362	560	668

年 度	雑誌受入累計数(種類)	購入(種類)	寄贈(種類)	その他(種類)
平成3年	1,353	364	970	19
4	1,476	428	1,029	19
5	1,573	473	1,069	31
6	1,683	517	1,133	33
7	1,782	561	1,188	33

開館状況

年 度	年間開館総日数	延長開館総時間数
平成3年	247	312
4	244	253
5	239	248
6	236	314
7	240	501

館外貸出冊数(冊)

年 度	館外貸出総冊数	教職員(冊)	学生(冊)	その他(冊)
平成3年	9,586	1,582	7,986	18
4	8,026	755	7,124	147
5	9,755	1,421	8,137	197
6	10,392	1,475	8,914	3
7	9,650	1,572	8,067	11

学外利用者数

年 度	学外利用者総数	他大学の学生	他大学の研究者	大学以外の研究者	その他
平成3年	215	83	54	15	63
4	272	148	48	50	26
5	300	105	66	41	88
6	261	122	76	24	39
7	284	142	68	36	38

5. カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校東洋図書館との交流

東洋図書館 (Richard C. Rudolph East Asian Library) はカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校 University of California, Los Angeles (UCLA) の13ある図書館のうちの一つであり、中国、韓国、日本3国の文献を扱う図書館である。UCLA 図書館はアメリカ国内でも大きな図書館であり、東洋図書館が所蔵する蔵書規模も有数で、なかでも仏教関係の文献の蔵書数はアメリカ国内でも一、二を争う。

本学と東洋図書館との交流は、東洋図書館が毎年中国、韓国、日本から1、2名ずつ図書館司書を Visiting Librarian (客員司書) として招聘し、図書館相互の交流と発展をはかるために設けられている交流プログラム (Exchange Program) によって始められた。日本からはこれまで慶応、早稲田両大学との間で3年間づつ継続しておこなわれ、本学図書館とも交流をはかりたい旨申し出があった。その契機は、1993年3月本学が UCLA から迎えていた客員教授から東洋図書館館長を紹介されたことにより、またあわせて東洋図書館が所蔵する梅尾祥雲氏旧蔵の密教関係の文献の整理を手伝って欲しいとの要請を受けたことによる。その後の度重なる要請を受け、1995年3月より3年間毎年1名の図書館職員を研修の目的で派遣することに同意し、交流プログラムが締結された。

東洋関係の文献の言語は、中国、日本、韓国の頭文字をとって CJK と呼ばれる。CJK 文献の電算化は、それぞれの言語の処理の困難さからいろいろな問題があり、さまざまな提案が試みられているが、それらにしたがった完全なシステムの完成をみていないという状況である。UCLA は ORION という独自の図書館システムで結ばれ、東洋図書館も OCLC-CJK system を使って所蔵資料の目録業務が進められている。またアメリカの図書館はすでにオンライン化され、多くの大学では自宅からでも自由に図書館のデータベースにアクセスし、情報を引き出し、研究に用いることができる。

大谷大学の情報化の立ち遅れはきわめて深刻な状況にある。本学の将来構想からいって、図書館機能の充実は必須であり、そのための職員の研修もまたきわめて重要な課題である。この東洋図書館との交流プログラムを通し、図書館電算化システムを学び、UCLA の図書館情報科学大学院 (Graduate School of Library and Information Science) の授業を聴講したり、またアメリカ

の各地で開催される図書館司書の諸会議に参加し、他の大学の図書館を訪問見学するなどのさまざまな研修を受けることができる。その意味で、このたびの UCLA の申し出は、大谷大学にとってまことに時宜にかなったことである。また東洋図書館は日本の図書館司書の協力を得て早急に整理したい日本語文献「梅尾コレクション」がある。そのためかねてから古文書を読みしかも仏教に精通した図書館司書の派遣を求めてきた。大谷大学図書館はこの要請に充分応えることができる。したがってこの交流プログラムは、相互の図書館にとってきわめて有益なものとして考えられ、平成7年度には、本学職員1名を派遣した。